

消費動向に関するアンケート調査 (2019年8月期)

調査結果の概要

生活満足度の平均は10点満点中岐阜県5.6点、愛知県5.7点。

- ・岐阜県・愛知県・全国ともに、前年に比べて生活満足度が高まる。
- ・愛知県と全国の暮らし向きは改善傾向にあるが、岐阜県では悪化した。

調査要領

1. 調査方法 インターネットによるアンケート調査
2. 調査内容 生活満足度、暮らし向き、収入、消費支出
3. 調査期間 2019年8月2日～5日
4. 回答状況 有効回答1,260名 回答者の内訳は以下のとおり

回答者の内訳

地域別	(人, %)			
	男性	女性	計	構成比
岐阜県	210	210	420	33.3
愛知県	210	210	420	33.3
全国	210	210	420	33.3
合 計	630	630	1,260	100.0

年齢別	(人, %)											
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
30歳未満	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
30歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
40歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
50歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
60歳以上	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
合 計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

未婚・既婚の別												
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
未婚	80	66	146	34.8	82	70	152	36.2	90	78	168	40.0
既婚	130	144	274	65.2	128	140	268	63.8	120	132	252	60.0
合 計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

職業別												
	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
公務員	13	4	17	4.0	9	1	10	2.4	13	3	16	3.8
経営者・役員	3	0	3	0.7	3	0	3	0.7	6	1	7	1.7
会社員	123	45	168	40.0	136	53	189	45.0	108	51	159	37.9
自営業・自由業	16	11	27	6.4	21	8	29	6.9	18	12	30	7.1
専業主婦(主夫)	0	80	80	19.0	0	84	84	20.0	2	65	67	16.0
パート・アルバイト	9	52	61	14.5	7	47	54	12.9	16	53	69	16.4
学生	6	6	12	2.9	9	5	14	3.3	9	7	16	3.8
その他	10	7	17	4.0	5	0	5	1.2	5	3	8	1.9
無職	30	5	35	8.3	20	12	32	7.6	33	15	48	11.4
合 計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

(注) 端数を四捨五入しているため、内訳の合計等が合致しない場合がある。

1. 生活満足度

現在の生活にどの程度満足しているかについて、「とても満足」を10点、「どちらでもない」を5点、「とても不満」を0点とすると、何点くらいになると思うか、と質問した。

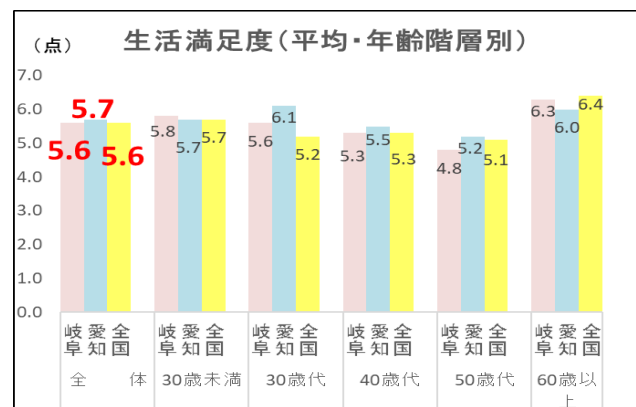
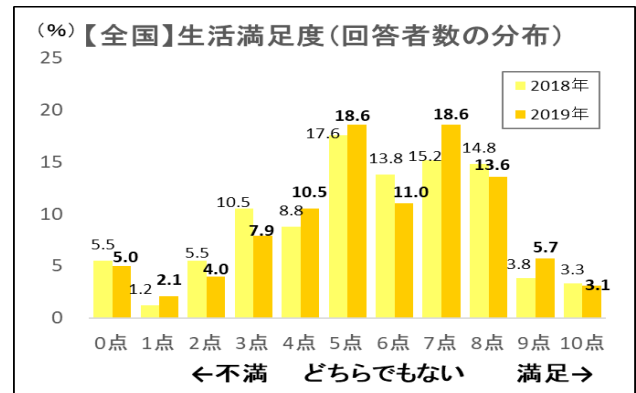
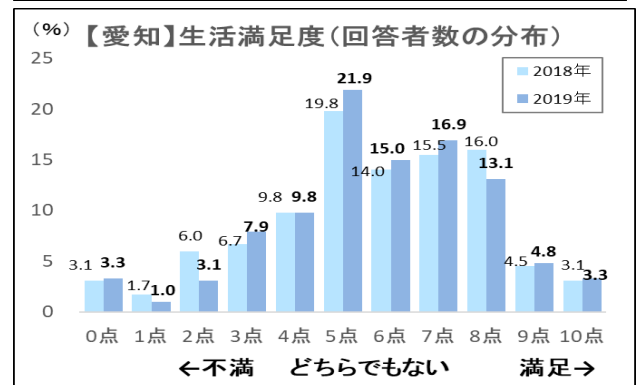
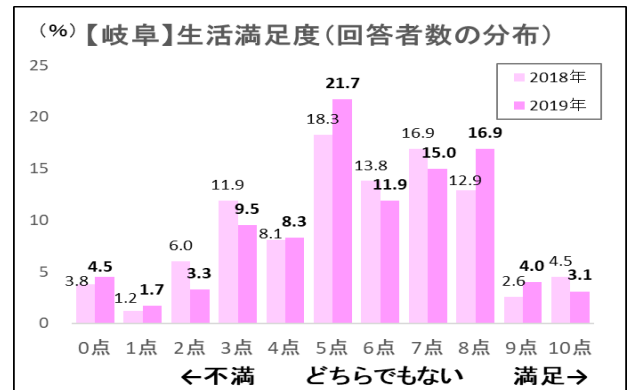
回答の分布では、岐阜県、愛知県、全国すべてにおいて「5点」と、「7点」又は「8点」と回答した割合が多い。

生活満足度の平均点は、岐阜県で5.6点（前年調査比0.1点増）、愛知県で5.7点（同0.1点増）、全国で5.6点（同0.2点増）となり、前年と比較していずれも上昇した。また、「0点～4点（不満）」より「6点～10点（満足）」が多く、生活に満足している人が多いようだ。

前年の結果と比較すると「0点～4点（不満）」の割合が減少し、「5点」の割合が多くなっている。

一方、「6点～10点（満足）」の割合に関しては、愛知県は53.1%と全国の52.0%を上回っている一方で、岐阜県は50.9%と全国を下回った。

地域別・年齢階層別の生活満足度をみると、岐阜県、愛知県、全国の全てにおいて、50歳代の満足度が最も低く、60歳以上になると上昇するという傾向が見受けられる。また、最も生活満足度が高い年齢について、岐阜県及び全国では、60歳以上であるのに対し、愛知県では30歳代となった。



2. 暮らし向き

1年前と比較した現在の暮らし向きについて、「良くなった」を1点、「やや良くなった」を0.5点、「やや悪くなった」を▲0.5点、「悪くなった」を▲1点とウェイト付けし、各項目の回答者数構成百分比を乗じてDIを算出した。

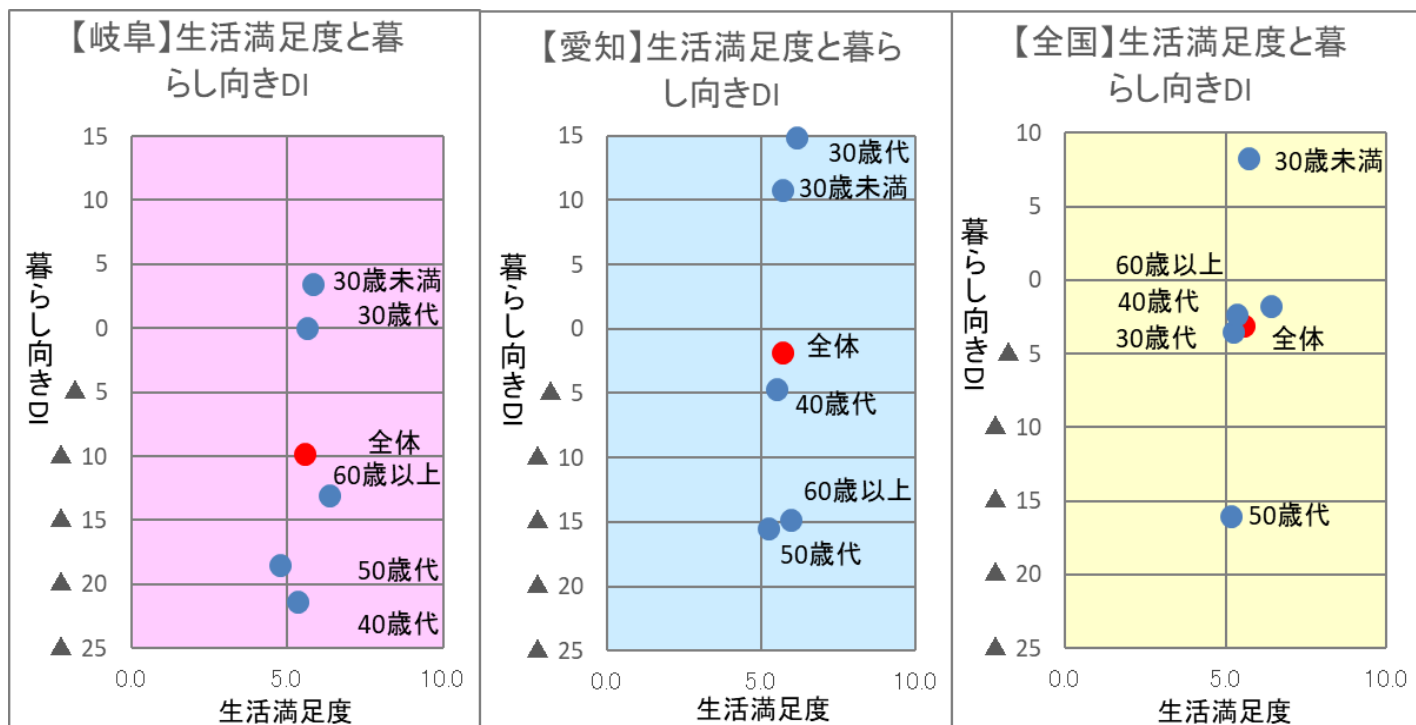
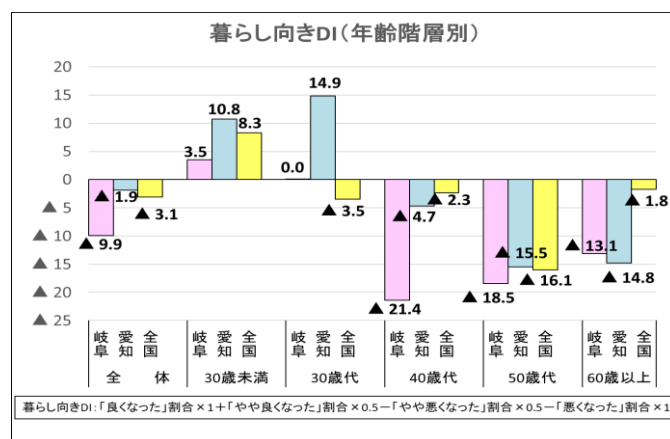
その結果、岐阜県は▲9.9（前年調査比1.0㊦減）、愛知県は▲1.9（同2.9㊦増）、全国は▲3.1（同2.8㊦増）となり、どの地域もマイナスとなった。また、前年調査比をみると、愛知県および全国は改善したものの、岐阜県では悪化した。

年齢階層・地域別にみると、全国・2地域とも、30歳未満ではプラスとなった。また、60歳以上は、50歳代に比べてDIが改善される傾向にある。

岐阜県では、すべての年代の中で40歳代のDIが最も低い。愛知県では、30歳代が最も高く、50歳代に向けて大きく落ち込む。全国で

は、50歳代になると落ち込み、60歳以上になるとDIは改善される。

暮らし向きと生活満足度の関係を見る。各地域とも、暮らし向きDIには年齢によってばらつきが見られるが、生活満足度は中位付近に集中している。また、特徴的なのが30歳未満と50歳代である。30歳未満では暮らし向きDIが他の年代に比べて高い。一方、50歳代になると暮らし向きDIも生活満足度も他の年代に比べて低い。



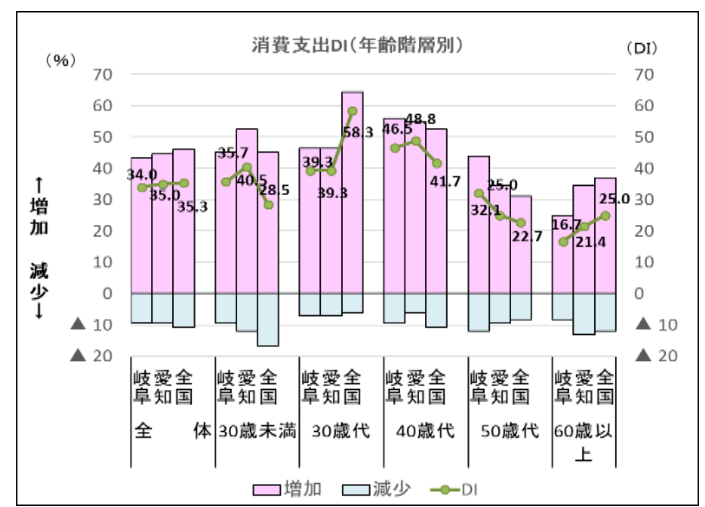
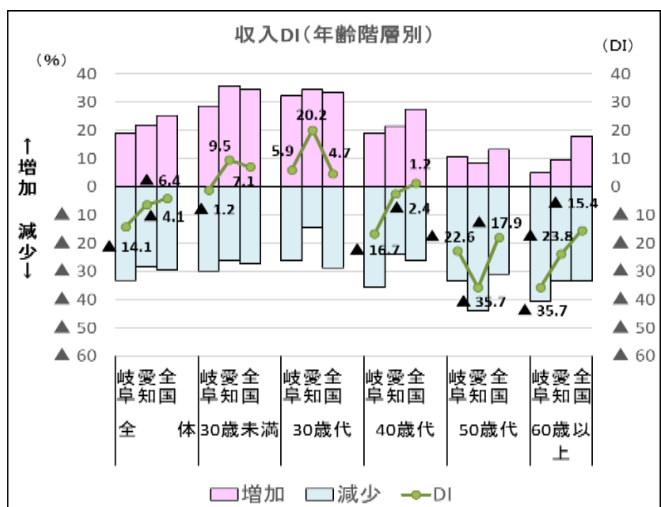
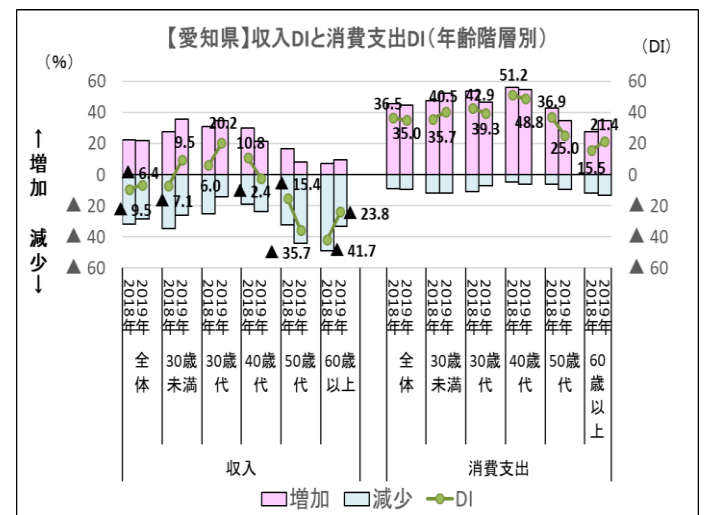
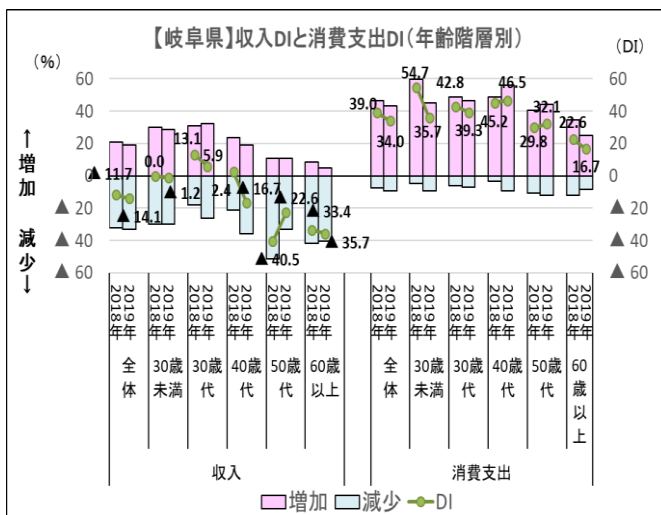
3. 収入と消費支出

収入 DI は、全体では岐阜県が▲14.1（前年調査比 2.4 割減）と前年と比較すると悪化し、愛知県は▲6.4（同 3.1 割増）と改善した。岐阜県では 50 歳代が大きく改善する一方、他の年代は悪化した。愛知県では、30 歳未満、30 歳代、60 歳以上の DI が大きく改善した。

「収入 DI（年齢階層別）」をみると、岐阜県と愛知県では 30 歳代、全国では 30 歳未満の DI が最も大きく、30 歳代では 3 地域ともプラスとなった。また、愛知県と全国では 50 歳代、岐阜県では 60 歳以上の DI が最も小さい。

消費支出 DI は、「増加」が「減少」を大きく上回り、岐阜県が 34.0（前年調査比 5.0 割減）、愛知県は 35.0（同 1.5 割減）となった。前年調査比をみると、全体では両県とも悪化した。岐阜県では 30 歳未満が、そして愛知県では 50 歳代の消費が大きく落ち込んだが、他の年代では大きな変化はなかった。

「消費支出 DI（年齢階層別）」をみると、岐阜県と愛知県では 40 歳代、全国では 30 歳代の DI が最も大きくなった。30 歳未満～40 歳代までは消費が旺盛で、50 歳代以降では 30 歳未満～40 歳代と比べ、消極的になっていることが窺える。



4. 費用項目別 DI

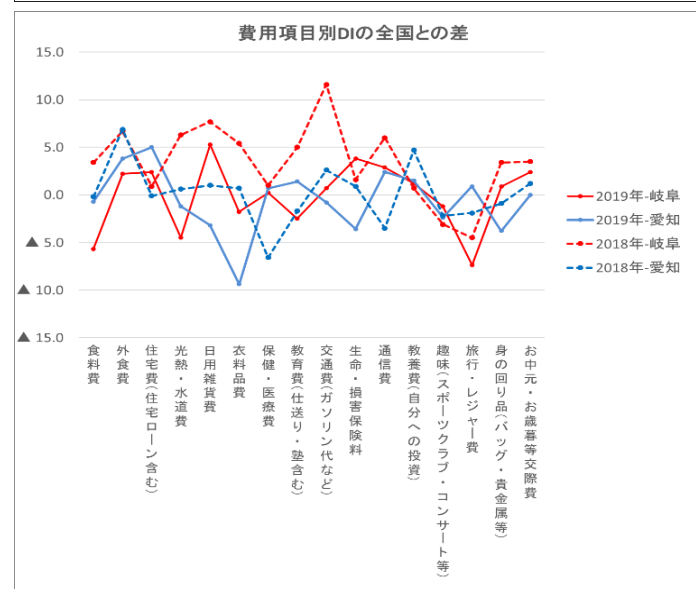
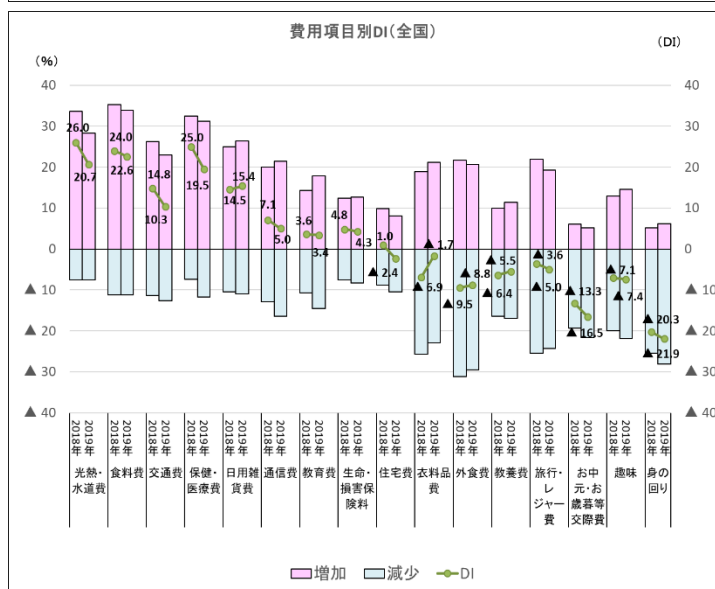
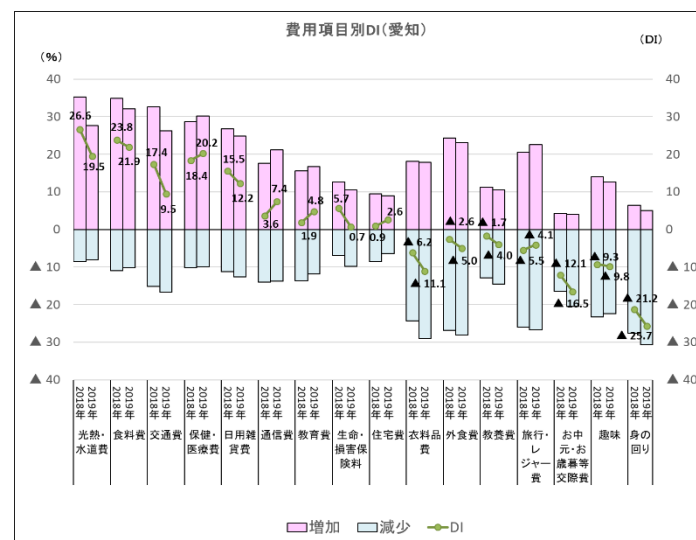
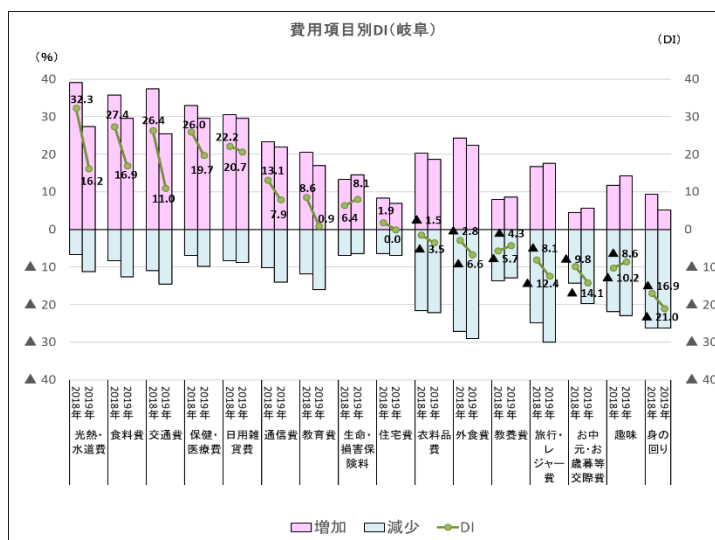
費用項目別の支出について1年前との比較（増減）について質問し、DIを算出した。

前年調査と比較すると、岐阜県では16項目の費用のうち、「生命・損害保険料」「教養費」「趣味」以外の13項目が低下した。愛知県では16項目中11項目が低下する結果となった。前年では大きく伸びた光熱・水道費は、いずれの地域でも大きく低下した。

全国の費用項目別DIを基準（0）とした時の岐阜県と愛知県のDIとの差、及びその変化をみる。岐阜県は前年より減少している品目が多く、

上昇したのは「住宅費」「生命・損害保険料」「教養費」「趣味」の4項目のみであった。愛知県では「住宅費」「保健・医療費」「教育費」「通信費」「旅行・レジャー」の5項目が上昇した。

また、2期間に亘って共通する傾向から、次のような特徴が挙げられる。岐阜県、愛知県の共通点は外食への出費が全国水準より多い。また、岐阜県はお中元・お歳暮等の贈り物の文化が根強く、また、旅行・レジャーにはあまり出費をしない傾向がある。



5. 終わりに

今、私たちの生活は豊かなのだろうか。良くなっているのだろうか。本調査では、このような主観的・感覚的な幸福感や効用、生活の質（QOL）を、生活満足度や消費活動等の生活実態のアンケート調査と DI 法を活用することで「見える化」し、岐阜県・愛知県・全国という「地域」や、「年齢」ごとに分析した。

生活満足度は、岐阜県・愛知県とも前年より改善された。また、両地域の回答の分布をみても、生活に満足を感じている人（6～10 点）は生活に不満を感じている人（0～4 点）より多い。年齢別でみると、どの地域でも 50 歳代の生活満足度が低く、60 歳以上になると上昇する。

収入・消費等の生活実態は、愛知県や全国において改善傾向にある。一方、岐阜県では前年と比較して、暮らし向き・収入ともに厳しいと感じている人が増えたようだ。特に収入 DI を昨年と比較すると、全国は 8.3 ㊦増加、愛知県は 3.1 ㊦増加、岐阜県は 2.4 ㊦減少となった。全国の収入が大きく改善していることからすると、岐阜県・愛知県の収入も改善される余地がある。年齢別にみると、30 歳代までの収入 DI は高く、消費活動も活発である。50 歳代になると収入も消費も落ち込んだ、と感じる人が増える。愛知県や全国では 60 歳以上になると若干改善される。

地域別でみると次の特徴が見受けられる。愛知県では、若手世代（30 歳代）の生活や暮らし向きへの高い満足感が窺える。若手世代の収入は増加傾向にあり、消費活動も活発であるため、生活満足

度も高い。一方、岐阜県では、中年世代（40～50 歳代）の不満・不安感が他地域に比べて強く表れている。また、60 歳以上の収入・消費に関しては、愛知県と全国では改善されているのに対し、岐阜県だけが悪化した。

年齢階層別にみると、全般に言えるのは 50 歳代での落ち込みと 60 歳代での改善である。

50 歳代はバブル入社組とも呼ばれ、労働人口構成では突出して多い。近年の日本経済停滞により業績に悩む企業が最も効果的な対応策として行っている事が人件費の削減によるコスト削減である。人件費削減のため、40 歳代後半から 50 歳代を対象とした早期退職や昇進速度の鈍化が進んでおり、50 歳代の生活満足度や生活実態が他の年齢層より低い要因に繋がっているのではないだろうか。

60 歳代以上になると生活満足度や暮らし向きが改善される。弊社の調査をみると、全国や愛知県では、2017 年度から年々収入 DI が増加している。これは、労働市場に参加する高齢者が増え、収入が増えたと感じる割合が多くなっているからなのではないか。また、現役時代に漠然と感じていた老後への不安感が和らぎ、年金等による安定した生活が幸福感の改善に影響しているのかもしれない。一方、岐阜県では収入 DI が減少している。社会が高齢者の経済活動の支援をすることで、高齢者の収入が増え、社会との繋がりが深まることで幸福感のさらなる上昇に繋がるのではないか。

本稿では割愛したが、男性より女性の満足度が高いこと、未婚より既婚の方が満足度は高いことも判明した。生活環境や社会での役割によって、満足感の感じ方や得られ方に違いがあるのかもしれない。

（研究員 小見山 尚子）